

市内56カ所の放射線量率一覧表(保育園・幼稚園・小中学校・高校・公園など)

毎月第2・第4火曜日と同週の木曜日に測定している市内56カ所の放射線量率について、前回との比較ができるよう掲載しています。また、除染状況や取り組み、数字の意味なども随時お知らせします。

(単位：マイクロシーベルト/時)

施設名	測定日		測定 の高さ	
	8/28・30	9/11・13		
保育園	中央保育園	0.106	0.108	0.5m
	上町保育園	0.159	0.150	
	つつじが丘保育園	0.092	0.094	
	向原保育園	0.106	0.088	
	栄町保育園	0.131	0.131	
	下根保育園	0.131	0.141	
	つばめ保育園	0.113	0.117	
	つばめ保育園牛久駅前分園	0.090	0.100	
	ふたばランド保育園	0.127	0.117	
	つつじが丘ふたばランド保育園	0.102	0.086	
	牛久保育園	0.123	0.112	
	牛久ひかり保育園	0.167	0.171	
	牛久ふれあい保育園分園	0.163	0.167	
	ひたち野うしく保育園つくしんぼ	0.080	0.073	
幼稚園	第二幼稚園	0.140	0.142	0.5m
	かわい幼稚園	0.161	0.159	
	牛久幼稚園	0.138	0.118	
	ひたち野牛久幼稚園	0.140	0.145	
	こぼと幼稚園	0.102	0.110	
	フレンド幼稚園	0.096	0.098	
	牛久文化幼稚園		0.104	
	牛久教会こどものいえ幼稚園	0.096	0.092	
	牛久小学校	0.129	0.127	
岡田小学校	0.163	0.122		
奥野小学校	0.129	0.123		
牛久第二小学校	0.165	0.182		
中根小学校・第一幼稚園	0.148	0.139		
向台小学校・牛久ふれあい保育園	0.131	0.121		
神谷小学校	0.108	0.117		
ひたち野うしく小学校	0.133	0.149		

施設名	測定日		測定 の高さ	
	8/28・30	9/11・13		
中学校	牛久第一中学校	0.125	0.150	1m
	牛久第二中学校	0.163	0.161	
	牛久第三中学校	0.098	0.113	
	下根中学校	0.138	0.127	
	牛久南中学校	0.136	0.134	
高校	牛久高校	0.169	0.143	1m
	東洋大学附属牛久高校	0.138	0.161	
	牛久栄進高校	0.110	0.122	
その他	こども発達支援センターのぞみ園	0.186	0.145	0.5m
	神谷小さくら台児童クラブ	0.180	0.175	
	教育センターきぼうの広場	0.188	0.165	1m
	牛久クリーンセンター	0.180	0.178	
公園	牛久自然観察の森	0.190	0.190	0.5m
	ひたち野みずべ公園	0.231	0.221	
	ひたち野さくら公園	0.247	0.082	
	ひたち野おやま公園	0.270	0.261	
	刈谷第1街区公園	0.144	0.134	
	本町第1街区公園	0.138	0.144	
	田宮東街区公園	0.073	0.079	
	みどり野第1街区公園	0.090	0.075	
	小坂第1街区公園	0.092	0.082	
	柏田第2街区公園	0.077	0.078	
	栄町第1街区公園	0.069	0.073	
	牛久運動公園	0.154	0.163	
	牛久運動広場	0.129	0.123	
	奥野運動広場	0.171	0.159	

※測定器：エネルギー補償型ガンマ線用シンチレーションサーベイメータ TCS-172B (日立アロカメディカル(株))を使用。

※測定の高さ：小学生以下の子どもが多く利用する施設は地上0.5m、その他施設は地上1mの高さで測定しています。

■追加被ばく線量の低下のために…

市は「年間1ミリシーベルト以下＝毎時0.23マイクロシーベルト以下」を目指します。

(環境省が長期的に達成すべき目標としている値)

※既に除染済みの施設に加え、公園や毎時0.23マイクロシーベルト(地上1m)以上の施設は、順次除染を行う予定です。

●放射線の基礎 [第6回] 「リスク評価」放射線の人体への影響(1)

放射能は「恐ろしい」、被曝すると「がん」になると、原発の事故以来感じている方が多くいらっしゃいます。大量の放射線を被曝すると、線量や放射線の種類などにより健康障害が生じるのは事実です。大量の放射線を短時間に被曝すると急性障害が生じます。急性障害は放射線感受性の相対的に高い皮膚や造血器官などに発生し、線量が高くなるのに応じて胃腸や神経に及びます。3人の作業員の方が急性障害を発症した平成11年のJCO 臨界事故では、瞬時に16,000～20,000ミリシーベルトの被曝をしたとされています。福島第1原発事故によって私たちが経験している被曝は、低線量被曝といわれており、急性障害が現れるような線量ではありません。

次回は「放射線の人体への影響(2)しきい線量」についてです。

問 放射能対策室(環境政策課内) ☎内線1568、1569